

---

Angel.

ひみらぎ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Angel .

### 【Nコード】

N3272Z

### 【作者名】

ひむらぎ

### 【あらすじ】

紫の空に、三つの銀の月。その下に広がる森で暮らす少女は、天使に会いたいと願いました。

空は紫色で、銀の満月が三つ浮かんでいました。

その空の下に広がる広い森で、なに不自由なく暮らす少女がいました。

ある日、少女は小さな泉のほとりで、一枚の羽を見つけました。白くて大きな羽です。とても綺麗で、少女にはこれが何であるのかわかりませんでした。

それは天使の羽だよ。

風に乗って、ささやくような声が少女の耳に流れてきます。

これは天使の羽。とても綺麗で、汚れ一つない純白に輝いています。

きつと、この羽毛でできた翼はもつと綺麗なのでしょう。

だからきつと、その翼を持つ天使は綺麗なのでしょう。

少女は天使に会ってみたいと思いました。

その時から、少女は天使を探して森の中を歩きました。

森はとっても広いです。果たしてこの広い森に、あの白い羽を持つ天使はいるのでしょうか。

見つけることは難しいでしょう。そもそも少女はこの森に住んでいますが、自分の家から遠くに行ったことがあります。森の全てをわかっているわけではないのです。

しかししばらく進むと、木々の向こうに一對の大きな白い翼が見えました。天使です。天使は少女に気付くと、微笑みました。そして森の奥へと進んでいきます。

少女は慌てて天使を追いました。もっと近くで綺麗な天使をみたいのです。

駆け出すと、すぐに木々の開けた場所に出ました。ここでは先ほどの天使が、大きなヘビに巻きつかれ倒れていました。一体どうしたのでしょうか。天使はヘビから逃れようと暴れています。

ヘビが天使の喉元に噛みつきました。すると天使は動かなくなりました。地面に赤い血がたくさん流れ出します。ヘビはそれを確認すると天使から離れ、近くの草むらの中へ隠れてしまいました。

天使は死んでしまいました。少女は天使に会えなくてがっかりです。地面に横たわり、喉元から血を流している天使の顔は、恐ろしいものでした。

天使の傍らに、抜け落ちた一枚の羽が落ちていました。純白の大きな羽です。

少女はそれを拾うと、その場を後にしました。

次の日、少女はまた天使を探して森を歩いていました。

天使はゆるやかに流れる川のほとりで、真っ青になって倒れていました。きつと、溺れてしまったのでしよう。

近くに羽が一枚落ちていました。少女はそれを拾いました。

次の日、少女はまた天使を探して森を歩いていました。

天使は大きなへびに頭から丸飲みにされていました。きつと、もう手遅れでしょう。

近くに羽が一枚落ちていました。少女はそれを拾いました。

次の日、少女はまた天使を探して森を歩いていました。

頭のない天使が倒れているのを発見しました。きつと、頭と体を切り離されてしまったのでしよう。

近くに羽が落ちていました。少女はそれを拾いました。

次の日、少女はまた天使を探して森を歩いていました。

頭だけの天使を発見しました。きっと、昨日見つけた体だけの天使の頭でしょう。

近くに羽が落ちていました。少女はそれを拾いました。

次の日、少女はまた天使を探して森を歩いていました。

天使は見つかりませんでしたが、大きな血の水たまりを見つけました。きっと、跡形もなく粉々にされたのでしょうか。

近くに羽が落ちていました。少女はそれを拾いました。

何度天使を見つけても、天使は死んでしまっています。おそらくこの森に住む者たちの仕業に違いありません。

だから少女は考えました。生きた天使に会うには、森を出ればいいのかと。

しかし、森から出るなと言われている。

でも少女は天使に会いたかったのです。少女は迷わず森を出ました。

森を出ると、紫色だった空は灰色になり、月もなくなりました。空は灰色一色です。地面も灰色一色で、世界は灰色でした。森の外は荒野です。何もありません。

荒野をしばらく進むと、崖っぷちで何かが輝いていることに少女は気付きました。駆け寄ってみると、崖の先の宙で天使が浮いていました。優しく微笑む天使です。広げた翼は大きくまばゆいほどに白く、とても綺麗です。

少女はようやく天使に会えました。天使は少女に気付くと、目の前に降りてきました。そして少女から今まで集めた沢山の天使の羽を受け取ると、それで小さな翼を作りました。小さくても、天使同様に真っ白に輝く綺麗な翼です。

天使はその小さな翼を少女に見せ、笑いました。そして少女の背に回ると、その翼を背中につけようとしています。

しかし、次の瞬間、天使のおなかから剣が生えてきて、天使は血を吐きました。おなかからは血が沢山溢れ出ます。天使の血は小さな翼にかかり、小さな翼は血で染まってしまい地面に落ちました。

天使はふらふらと宙を漂うと、崖から落ちてしまいました。崖っぷちの先をみると、片手に血のついた剣を握った悪魔がいました。

よけいなことを教えるべきではなかったな。

悪魔は少女の頭をぽんぽんと軽くたたきました。

それに、言いつけを破って森の外に出るなんて思わなかった。

あの天使はお前を天に連れていくために来たんだよ。この意味がわかるかい。お前を殺すために来たんだよ。

天使たちは人間が世界にまた繁栄するのを恐れている。また大きな戦争を起こして、こんな灰色の世界にしてしまうから……

でも我々悪魔にとって人間は必要なものなんだよ。いいかい、お前はこの世界で最後の人間なんだから、あまり危ないことはしないんだよ。お前は人間がまた繁栄するための鍵なんだから。

悪魔は森へと歩いていきます。

森へ帰るよ。

少女は地面に落ちた小さな翼をみていました。血に染まって汚れた翼です。しばらくすると、悪魔の後を追いました。

(後書き)

読んでくださりありがとうございます。

感想等あれば、お願いします。

こういった妙な物語が時々やりたくなります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3272z/>

---

Angel.

2011年12月11日11時46分発行